

男子決勝(金沢高校 対 津幡高校)

決勝は、昨年総体初優勝をし、2連覇を目指す津幡高校と、昨年津幡高校に負け、準優勝であった金沢高校の対戦となった。結果、第2P、ディフェンスを全員で頑張り、点差を広げた金沢高校が制し、2年ぶり悲願の優勝となった。第1P、金沢高校はスピードある#4 傳見のドライブインからゴール下での合わせを中心に、津幡高校は#10 小寺の力強いドライブインから#8 宮城の3Pを中心に攻め続けた。第2P、金沢高校は変則的なオールコートプレスをしかけ、パスカットからの速攻により、得点を重ね、前半を61対36と金沢高校が25点差リードで前半を終了した。第3P、点差を縮めたい津幡高校は#4 音島、#8 宮城、#10 小寺の3Pで攻めようとするが、シュートが思うように入らず、金沢高校はリバウンドを全員で頑張り、#4 傳見からのロングパスによる速攻をしっかりと決め、点差をさらに広げた。第4P、そのまま点差を縮めさせることなく、ゲーム終了。

(戦評 池田 敬)

女子決勝(津幡高校 対 飯田高校)

決勝は、昨年総体優勝を逃した津幡高校と、悲願の初優勝を狙う飯田高校の決勝となった。第1Pは両チーム互いにマンツーマンからのスタート。飯田は#4 川原と#6 釣谷のコンビプレーなどで攻め立てる。一方、津幡は#10 大工と#12 井上のキレのあるドライブや#5 片山の3Pで食い下がる。第2Pはディフェンス合戦となる。お互いに激しいディフェンスを繰り広げ、双方得点を許さない。津幡が22-19でリードを保ったまま前半終了。第3P、津幡は外角プレーヤーが激しいマークに合う中、#13 林田がインサイドでリバウンド、ルーズボール、得点に絡み少しずつリードを広げていく。第4Pは33-25で津幡のリードで始まる。津幡の#12 井上のドライブを中心にリードを広げにかかると、逆転を狙う飯田高校の#6 釣谷などの3Pやドライブをきっかけに反撃を仕掛け、残り6分ついに同点に追いつく。その後は両チームの気迫のぶつかり合いとなったが、最後に、#5 片山が3Pで突き放し、津幡が9点差をつけ、優勝した。

(戦評 向田 圭吾)